

お知らせ

「原子力安全PRに協力」はまったくの事実誤認です

「創」5・6月号で、佐高信氏の記事「筆刀両断」に、各電力会社や電気事業連合会の原子力安全PRに協力した文化人のリストの中にC・Wニコルの名前がありました。

また、この原稿をいくつかのブログが取り上げております。

これは、まったくの事実誤認であり、ただ今「創」編集部ならびに筆者佐高信氏に対し、厳重に抗議をするとともに、訂正文の掲載を依頼しております。

C・Wニコルの過去20年間の仕事を調査しました。その誤解を生んだと推測されるものは、下記の2つです。それ以外、各電力会社依頼の仕事はまったくありませんでした。

1. 雑誌掲載 2008年 「山と溪谷」10月号 “TEPCOのECO対談”

テーマ 「森の家族が増えれば美しい日本がまた蘇る」

対談内容 日本の森とアフターの森づくりの話

依頼者 山と溪谷社

2. 講演会出演 2010年9月10日

主催 ENE-WEY 実行委員会・中部電力(株)

場所 名古屋国際展示場

対象 取引先社員

依頼者 (株)ユニコンユニマン

テーマ 2010年は国連が定める生物多様性年でしたので「森の復活と生物多様性」について話をしました。

以上、これらの仕事では、環境問題の一つとしてCO2削減など原発に有利になるような話はしておりません。

「原子力安全PRに協力」などはまったくの事実誤認です。

また、これまでに各電力会社主催の講演会の依頼はありましたが、いつも原発関連はダメですとはっきりお断わりをしておりました。

C・W ニコルは、26 年前より自宅のある長野県黒姫で荒れた森を私財を投じて買い取り、生態系豊かな森へ回復するため人生をかけ尽力してまいりました。

また、今回の大震災でも日本の行末を心配し、自然に抗う復興の仕方ではなく、自然と共存する国のデザインをするよう様々な機関に提言をし続けております。さらに、一部誤報のある海外のメディアに対しても、正確な情報を報道するよう働きかけております。

何卒、ご理解の程、よろしくお願い申し上げます。

2011 年 4 月 10 日
株式会社 C・W ニコルオフィス
森田いづみ